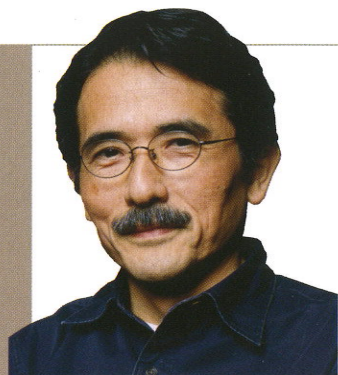


II



林望先生と歩く 【日本古典の森】

講師 作家、書誌学者 **林望** Nozomu Hayashi

プロフィール

1949年東京生まれ。慶應義塾大学大学院博士課程修了。ケンブリッジ大学客員教授、東京芸術大学助教授等を歴任。専門は日本書誌学・国文学。
『イギリスはおいしい』で日本エッセイスト・クラブ賞、『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』で国際交流奨励賞、『林望のイギリス観察辞典』で講談社エッセイ賞を受賞。
国文学・書誌学の研究論文、エッセイ、小説の他、歌曲の詩作、能評論、料理本、詩集等、著書多数。また勝又晃・田代和久氏らに師事して声楽を学び、バリトン歌手として広く演奏活動もしている。

●主な著書

『能よ、古典よ!』(繪書店)、『日本語は死にかかっている』(NTT出版)、『文章の品格』(朝日出版社)、『旬菜膳語』(岩波書店)、『リンボウ先生の日本の恋歌』(集英社文庫)、『これならわかる能のおもしろさ』(淡交社)、『恋の歌恋の物語』(岩波ジュニア新書)、『すらすら読める土佐日記』『すらすら読める風姿花伝』(講談社)、『リンボウ先生へそまがり日本語講義』(PHP新書)、『往生の物語』(集英社新書)、『古今黄金譚』(平凡社新書)、『能は生きている』『林望が能を読む』(集英社文庫)

教材

古語辞典をご用意下さい。随時、書籍・資料をご案内します。

講座概要

日本人が日本語を知らないと言われる。それは畢竟、古典文学の世界を知らないためです。古典というと「退屈な古文の授業」というイメージが強く敬遠する人が多いのですが、実は、古典とは千年来「面白くあり続けた」文学なのです。

本講座では、古代から近世まで、韻文と散文にまたがって、各時代、種々のスタイルの古典作品を取りあげ、そのごく「さわりの」ところから、ほらこんなに古典は面白いぞ、ということを感じていただきます。

予習は必要ありません。豊かな実りもあれば、へびも棲み、生命の息吹も溢れば、おばけも出る、そんな古典の森をリンボウ先生と一緒に歩くことで、頭ではなく“こころ”で、古典の楽しさを存分に味わいます。

第1回
4/16(木)

『古事記』『万葉集』の
ヒューマニティ

19:00~21:00

文学史の中でも最も古い時代、古代の文学に触れます。
『古事記』からは、日本はどんな国なのかという根本を知り、『万葉集』では歌に表れた不易の人情や恋を味わいます。

第2回
4/30(木)

『枕草子』は愉快だ

19:00~21:00

お上品な随筆文学だと思われている『枕草子』。実は、遠慮なくズケズケと物を言う女房清少納言が、正直に赤裸々につづっている王朝の世界です。それは現代のわれわれの生活にもごく近いところがあって、興味はつきません。

第3回
5/14(木)

『源氏物語』の
リアリズム

19:00~21:00

『源氏物語』千年紀で、ちょっとしたブームですが、その実、どのくらい本当の原文の面白さが読み解かれているか、じつは心もとないところがあります。
漫画や現代語訳では分かり得ない、原文の持つ大迫力をじっくりと掘り下げます。

お勧めしたい方

- 古典文学の面白さ・楽しさを味わいたい方
- 「をかし」や「もののあはれ」など、古典文学に通底する日本文化の本質について理解を深めたい方

慶應丸の内シティキャンパス

タ学プレミアム

agora

講座の特徴

頭で理解するのではなく、“こころ”で楽しむ

第1回から第4回は、声楽家としても知られるリンボウ先生の朗読を通して、原文の持つリズムと音を味わいます。

参加者による歌会・句会

第5回・第6回では、参加者の皆さまに、実際に和歌・俳句を詠んでいただきます。

開催概要

日程 2009年 4/16、4/30、5/14、
5/28、6/11、6/25(すべて木曜日)

回数 全6回

時間 第1回-第4回 19:00-21:00 (2時間)
第5回-第6回 18:30-21:30 (3時間)

定員 25名

会場 慶應丸の内シティキャンパス

参加費 105,000円(税込)

第4回
5/28(木)

『平家物語』の 「もののあはれ」

19:00~21:00

『平家物語』は、合戦の場面ばかりの殺伐たる物語だと思い込んでいないでしょうか。実はこの作品は、随所に、恋や、親子の情愛や、師弟の友誼や、武士の情や、人情の機微が散りばめられた名作です。もののあはれに満ちた、豊かな世界をじっくり味わいます。

第5回
6/11(木)

王朝和歌にこもる イメージ

18:30~21:30

平安時代以降の、勅撰集を中心とした和歌の世界を逍遥します。特に、技巧的で、なかなかその味わいどころの掴みにくい王朝和歌を、どうすればより深く味わい得るかをじっくりと伝授します。

第6回
6/25(木)

近世俳諧の雅俗

18:30~21:30

近世韻文学といえば、俳諧。いわゆる俳句だけでなく、芭蕉七部集などに代表される連句の世界も含めて、近世の俳諧文学とはどのような世界なのでしょうか。和歌の風雅の世界とは違った、俗のうちにこもる人情を味わいます。